



じりっ「自律と自立」

指 宿 高 等 学 校
進路指導部 第 4 号
発行日 R5. 7. 20 (木)

1学期が終わります。24日から夏季課外前期が始まり、三者面談が始まる学級が出てきます。

1、2年生は、3年生の動きを意識しながら、この夏を有意義に過ごせるように計画を立てよう。



☆3年生：「夏は受験の天王山」

～天王山は京都に実際にある山で、秀吉と光秀が戦い、この戦いに勝利した秀吉が天下統一に一步近づいたとされています。よって、天王山とは、戦いのせめぎ合いの場所のこと！つまり、「夏は受験の天王山」とは、受験勉強において夏は譲れないものということです。～

【3年生の今】

放課後学習、発展講座などが始まり、授業・課外・自宅での時間を最大限活用したいところです。公務員希望者は、対策セミナーに参加したり、各自で行う出願が始まります。専門学校等を受験予定の生徒は、エントリーが始まる生徒がいたり、志望理由や自己PRなどを考えたり、小論文（作文）や面接対策も始める時期です。9月体育祭が終わってからでは遅いので、夏休み期間中に早めの準備を始めましょう。大学進学志望者の中には、三者面談を経て志望校や選抜方法を確認し、総合型選抜や推薦型選抜に挑戦する覚悟を決める人も出てきます。

【この夏にぜったいやっておくべきこと】

- ★受験科目の総復習・・・受験を左右するのは基礎。高校3年の夏は、基礎習得に力を入れられる最後のチャンス！
- ★苦手科目の克服・・・苦手科目も平均点程度までに克服できると得意科目がさらに強みになる！
- ★共通テストや過去問に挑戦・・・敵を知る（出題傾向や形式や量など）
- ★模試の受験・・・己を知る（模試は受験後すぐに解きなおしを行い、自分の今の力を知ろう。）

☆1・2年生：3年生の先輩が部活動を引退し、2年生は生徒会も学校行事も中心的役割を担っています。クラスマッチでもその運営の中心となり、プレーでも1・2年生の勢いを強く感じました。3年生の進路に臨む姿を今の自分に重ねて、昨夏以上に効果的な時間を過ごしましょう。1年生は2学期に行われる文理選択を意識して、文系・理系の選択を考え始めましょう。

大学で何を学ぶ？～いざ学問選択！あなたはどのタイプ？～

あなたの興味や得意から自分の進む道をさがすのも一つの方法です。以下の8つの分野にあなたが興味をもっていることや将来めざしたいことはありますか？

1. 文化を味わう ～時を越えて、国を超えて、人の営みを見つめる。

→文化を表す“culture”は、ラテン語の“colere（耕す）”が語源。土を耕し作物を育てることで、人々は食の豊かさを享受してきた。一方、文化も私たちの心をより豊かにしてくれるもので、言い換えれば「人々が心を耕し育ててきたもの」と言える。大学ではこうした文化を扱う学問を「人文科学」といい、時を超え、国を超えて人の営みについて考えていく。

〈どんな学部・学科？〉文学、外国語学、歴史・地理学、文化学、芸術学など

2. 人間を知りたい！ ～人間にとって「人間追求」は永遠のテーマ～

→「人間とは何か」という問いにはどんな答えがあるだろうか。言葉を話す生き物、知識を伝え

る生き物、喜怒哀楽をもった生き物などいろいろ考えられるだろう。大学では、考える・話す・信じる・思う・教えるなど、人間のさまざまな活動に注目し、「人間とは何か」について考えていく。人間らしく生きることや人と人とのつながり、次世代の育成などが大きなテーマだ。目まぐるしく変化する現代社会において、私たちはどう生きていけばよいのか、先人たちの知恵から学んでいく。

〈どんな学部・学科?〉哲学・宗教学、心理学、教育学・教員養成系、児童学、人間科学など

3. 社会の仕組みを考える ～社会が抱える問題に多様な視点で取り組む～

→人間が集まって構成している「社会」。現代社会では日々さまざまな変化や問題が起きている。社会で起こる出来事を分析し、社会のルールや仕組みについて考えていく学問を大学では「社会科学」という。高校までの科目でいう公民に近く、課題の解決策を探っていくという意味で実学的要素の強い学問分野だ。

〈どんな学部・学科?〉社会学、社会福祉学、国際関係学、法学、政治・政策学、経済学、経営・商学など

4. 自然の原理を探る ～科学技術はすべて「自然の原理」をベースにしている～

→人間は長い年月をかけて自然の謎に挑んできた。まだ解明できていない問題の解決をめざし、自然界の法則性や基本原理を追求していくのが理学系の学問だ。理学系の学問は、高校で学ぶ数学、物理、化学、生物、地学にほぼ対応している。工学に比べると実学的要素は薄いですが、科学技術の発展を縁の下で支えているのは理学での基礎研究だ。

〈どんな学部・学科?〉数学、物理学、化学、生物学、地球科学など

5. 技術を生み出す ～人類に夢がある限り技術革新は終わらない～

→次々に登場する科学技術。身の回りには、技術の恩恵を受けているものがあふれ、自然界の原理や知見を土台に、実生活に役立つ有用な技術の開発をめざす学問が「工学」だ。工学というと「モノづくり」を思い浮かべやすいが、工学が対象とする領域は広範囲にわたる。学科名だけでは学ぶ内容が分かりにくいいため、好きな科目から向いている学問について考えてみるのもひとつだ。

〈どんな学部・学科?〉機械工学、電気・電子工学、通信・情報工学、材料工学、応用工学、生物工学、航空・宇宙工学、デザイン工学、土木・環境工学、建築学など

6. 食と環境を守る ～食の安定供給と環境保護の両立をめざして～

→食料はどのように生産され、どんな過程を経て私たちの食卓に届くのか。世界で起きている環境問題は何か。こうした食料や環境にかかわることを扱うのが農学・環境学で、SDGsに関連する内容も多い。また農学、水産学は工学的な研究をしている先生もいる。

〈どんな学部・学科?〉農学（生物生産系）、農学（応用生命系）、農学（環境系）、水産学、環境学、獣医学など

7. 健康に生きる ～健康を守り、豊かな「生」を支える～

→私たちの健康な生活を支える医療。超高齢化社会を迎えた日本では、治療にとどまらず、予防医学の重要性が増している。人生100年時代に向けて、健康寿命を延ばす取り組みにも期待が高まっている。けがや病気を治療するための知識・技術を習得するだけでなく、新たな治療法の研究開発などにも取り組む分野である。

〈どんな学部・学科?〉医学、歯学、薬学、看護学、医療技術系、スポーツ健康科学など

8. よりよい暮らしへ ～快適で質の高い生活を創造する～

→「いまの生活をより豊かに、より快適にしたい」。そんな願いを実現するために、「衣食住」を科学的に学んでいく。以前は研究対象が家庭生活に限られていたことから、「家政学」と呼ばれたが、現在は社会問題までに拡大しており、人間の生活全般を生活者の視点で研究するため「生活科学」「生活環境」「人間生活」といった名称の大学が増えている。時代の流れとともに、人々を取り巻く環境は刻々と変化し、さまざまな問題を抱える現代の生活。安心安全で、質の高い生活をめざす学問分野である。

〈どんな学部・学科?〉被服学、食物・栄養学、住居学、生活科学など

Kei-Net HP 参照

近年では、大学の改組・再編がすすみ、文科系・理科系にまたがる文理融合型の学際的な学部もあります。自分が本当にやりたいことを見つけるには、自ら進んで進路研究をすることです。オープンキャンパスに参加したり、大学のHPをチェックしたり、この夏を進路研究に活用しましょう！